

令和3年度 徳島県立鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校長

森本 真由美

1 学力向上検討委員会構成

学 力 上 向 検 討 委 員 会		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	森本 真由美 掛田 千津子
学力向上推進員	教務課長	中 史治
委員	小学部長 中・高等部長 小学部教務主任 中・高等部教務主任	藤原 美咲 近藤 美和子 北條 佳子 上田 利沙

2 学力・学習状況における現状分析, 目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(小 学 部 ) 幼 児 児 童 生 徒 の 状 況			
よさ	昨年度は、実態の違いがあるものの、児童一人一人の特性や能力に応じた支援に取り組む、それぞれの学びを実現し、自ら課題解決に向けて意欲的に学習しようとする姿勢を身につけ、持てる力を発揮することができた。また、児童の主体的な取組を児童自らホームページに掲載したり、作品展で発表したり、地域社会に向けて発信したりすることで、学校内外からの評価を得て、自己実現につながる学習によりいっそう意欲的に取り組むことができている。	課題	児童数が少なく、児童一人一人の実態に違いがあるため、集団を形成しての学習活動が難しい。さらにコロナ禍で、学部を超えた集団形成や交流及び共同学習を実施できず、以前に実施していた児童生徒間の関わりや集団での活動によるコミュニケーション能力や社会性を伸ばすことが難しくなっている。また、児童の特性上児童同士の関わりに抵抗のある児童もおり、教員との関わりが多いという現状がある。
	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
	キャリア・パスポートの作成を通して今の自分自身や生活を振り返り、自分の現在や将来をよりよいものにしようと、それぞれの課題に主体的に取り組む、自信をもって学校生活を送ることができる。	児童と教員が協力して「キャリア・パスポート」作成率を100パーセントとする。	
			評価

具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
<p>学部会の後の時間等を活用し、計画的に研修を行う。</p> <p>研修内容は各教員が設定し、児童の指導に必要な知識及び個性の伸長や自己実現につながる内容とする。</p> <p>引き継ぎ資料等を活用し、児童の実態に即した指導方法の周知も含む。</p>	<p>年間10回以上研修会を実施する。</p> <p>年間3回以上研修会についてホームページで発信する。</p>	
* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項		

(中・高等部) 幼児児童生徒の状況			
よさ	<p>昨年度から取り組んでいる遠隔による校外の人々との交流学习において、最初はタブレットの画面を通してのやりとりで戸惑うことが多かったが、回数を重ねることで少しずつ慣れ、意欲的に活動することができた。</p>	課題	<p>校外の人と関わり、様々な経験を積むことは、生徒にとって意義がある。今後も遠隔による交流学习を続けていくが、生徒の障がいが多様化、重複化しているため、個々に応じた発信力を高めて行くことが必要である。</p>
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況	
<p>校外の人々との遠隔による交流学习を通じて、人と関わる経験の幅が広がり、社会性が伸びる。</p>	<p>目標に対する達成状況について、教員にアンケートをとり、「達成できた」、「どちらかという達成できた」の評価を合わせて70%以上で達成とする。</p>		
		評価	
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況	
<p>2ヶ月に1回活動を実施し、振り返りと改善を行いながら、次時に生かしていく。</p> <p>発表に向けて指導助言を受けたことを内容に盛り込みながら資料作成に取り組んでいくようにする。</p>	<p>遠隔による学習活動(学校と吉野川市役所を繋いで)を年間5回以上実施する。</p> <p>助言の先生による指導を学期に1回受ける。</p>		
* 中間期の見直し			
達成状況を踏まえた改善事項			